

ハチ博士の ミツバチコラム

34



京都大学
坂本文夫名誉教授
(バイオ環境学部)

古代エジプトでの養蜂

チの文化史より)

紀元前1500年頃になる

養蜂技術を示す最古の証拠は古代エジプトの遺跡から発見されたレリーフで、紀元前2600年までさかのぼります。採蜜の場面を描いた絵に添えられた象形文字を解読すると、ミツバチを煙で大人しくさせ、切り取った巣板を圧搾して採蜜し、かめに詰めて封印する技術が記載されています。更に驚くべきことに、

蜂群を乗せた船をナイル川に浮かべ、花の開花時期に合わせて川の上流から下流、下流から上流へと移動させる転地

養蜂がすでに行われていたそうです。(渡辺孝著、ミツバ

と、有力者への献納物や王室の副葬品のリストにも現れてきて、ツタンカーメンの墓から蜂蜜が発見されたことは有名です。養蜂技術の進歩で甘味料としても利用されたと考えられますが、やはり日常的な使用ではなく、薬用やお酒のように、非日常的な目的に使われたようです。薬用として栄養的なものだけでなく傷の手当など、今でも合理的と思われる目的を始め、一種の万能薬として使われています。

蜂蜜のお酒はミードと呼ばれ、ヨーロッパでは今でも一

般的に飲まれていますし、最古のお酒とも言われています。蜂蜜はそのままでは糖度が高すぎて、自然界の何処にでもいる酵母による発酵も進みませんが、水で2・3倍に薄めてやると発酵し始めて、1・2週間であまじいミードができ上がります。ビールのはじめは古代エジプトと言われますが、ミードの起源も案外古代エジプトかも知れませんが、ある会社のミードの宣伝には「クレオパトラの美しさの秘密」とあります。



イラストおおくぼひとみさん